

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006－2009
課題番号：18520286
研究課題名（和文） アラブ・ペルシア文学における異形の表象の比較研究
——越境者アレクサンドロスを追って
研究課題名（英文） A Comparative Study of Mirabilia in Arabic and Persian Literature
:Alexander, the Seeker Beyond Borders
研究代表者
山中由里子（YAMANAKA YURIKO）
国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授
研究者番号：20251390

研究分野：比較文学・比較文化
科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論
キーワード：(1) 比較文学 (2) アレクサンドロス (3) 博物誌 (4) 地理書 (5) 旅行記
(6) 異形 (7) アラブ (8) ペルシア

1. 研究計画の概要

アラブ・ペルシア文学におけるアレクサンドロスと辺境、または異界との結びつきの象徴性について、多様な資料を総合的に検討する。未知の世界を描写する際の文学的なトポスとして、アレクサンドロスがどのような役割を果たしていたかを明らかにすることは、アレクサンドロス研究に貢献するのみならず、卓越した歴史的人物が後代のテキストにおいて、どのように表象されるかという問題のケーススタディともなる。

さらに、ヨーロッパや東アジアの文学にも考察を広げ、辺境、異界、未知の世界に対するイメージの根本に潜む人間の基本的な感情——好奇心、恐れ、憧れ、驚き、差別、征服欲など——を探る。これらの感情から生まれた表現は文化、時代、言語によって様々である。文学研究と民族学の境界を越え、多文化圏の異形の表象を比較し、相対化する。

2. 研究の進捗状況

(1) 国内外の図書館で、アラビア語・ペルシア語原典テキスト、および参考文献を収集してきた。原典の翻訳も進めている。これらのテキストから主要なエピソード、モチーフを抽出する作業も進めている。

(2) 科学研究費研究補助金 研究成果公開促進費（学術図書）の交付を得て、名古屋大学出版会から『アレクサンドロス変相—古代からイスラームへ』と題した単著を 2009 年 2

月に刊行した。イスラーム勃興からモンゴルの侵攻までの時代（7～13 世紀初め）のアラブ・ペルシア文学における時系列的な世界観の変遷と空間的・地理的な世界観の拡大の関係を明らかにしている点において、本研究課題の土台となる考察がなされている。

(3) 海外での学会・シンポジウムに参加し、研究動向の調査および学術交流を行ってきた。これまですでに交流のあった中東関係の研究者に加え、フランスの比較文学研究者、ドイツの中央アジア・東アジア研究の専門家とのネットワークを構築することができた。

具体的に述べると、2007 年にパリで開かれた「語りの分類」というシンポジウムでは、イスラーム世界の知識人たちが博物学的な知識をどのように分類してきたかについて考察するための意義深い議論が展開された。また、ドイツのマールブルグ大学で 2008 年に開かれた国際ワークショップ「文化・商業・人の移動の十字路—大陸と海のシルクロードの比較」に参加し、中国の文献に表れるアレクサンドロス伝承の断片について発表できたことは意義深かった。西アジアと東アジアを結ぶ交易、巡礼・布教活動、学術交流、政治などの移動ネットワークの歴史的文脈の解明につながる、興味深い議論が交わされた。

(4) 学会、シンポジウム等における発表はすべて外国語（ペルシア語、フランス語、英語）で行い、国際的な研究発信を行ってきた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

本研究課題の土台の部分となっている、これまでの研究を学術的な単行本として刊行できたことは大いに評価できる。アラビア語、ペルシア語、歴史、宗教、文学などといった言語や分野の壁を突き破った研究はごく僅かであり、中東のアレクサンドロス物語に関しては個別の作家、作品を専門とする研究者はいるが、通時代的に様々な分野の著作物の中に散在する言説を整理し、イスラーム世界におけるアレクサンドロスの象徴性を包括的に検討した研究書は存在しない。巻末の60ページ近くにわたる原典資料、参考文献リストだけをとり、過去150年ほどのアレクサンドロス伝承研究を総括するものとして、極めて有益である。

この著書にまとめた研究のさらなる展開を、国際的な学会動向調査および研究発信を行いながら探ってきた。その学術交流の中で、これまで収集してきた「異形の表象」に関わるテキストを分析するための方向性が明らかになってきた。それと同時に、本研究を国際的な連携研究へと発展させるネットワーク構築も着々と進めてきた。

4. 今後の研究の推進方策

研究成果を論文として発表することに加え、研究期間の終了後、本課題を共同研究として展開するための枠組みをどう構築するか検討してゆく。

海外での研究交流を通して築いたネットワークを活かし、今後ヨーロッパや東アジアの文学・美術との比較を含めた国際連携研究に発展させてゆく。

将来的には、本研究で扱ったテーマを中心とする特別展覧会を企画することも視野に入れている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① Yuriko Yamanaka 《 Un héros aux mille et un visages: classification des récits sur Alexandre dans la littérature médiévale arabe et persane 》 Aboubakr Chraïbi ed., *Classer les récits : Théories et pratiques*, 2007, 241-256. 査読無

- ② 山中 由里子 「初期イスラーム時代の歴史認識におけるアレクサンドロス」『比較文学研究』87、17-40、2006、査読無

[学会発表] (計 6 件)

- ① Yuriko Yamanaka, “Migrating Narratives: Fragments of the Islamized Alexander Romance in Chinese Geographies and Encyclopaedias” *Crossroads of Culture, Commerce, and Human Movement Continental and Maritime Silk Routes Compared*, 2008年11月1日、マールブルグ大学、ドイツ
- ② Yuriko Yamanaka 《 D’ Alexandre à Iskender ou la fortune du Roman d’ Alexandre en Orient 》 *Trésors du patrimoine écrit*, 2008年6月3日、国立文化遺産研究所、パリ、フランス
- ③ Yuriko Yamanaka, “Imitatio Alexandri in Ghaznavid Panegyrics and Historiography” ヨーロッパイラン学会、2007年9月21日、オーストリア科学アカデミー、ウィーン、オーストリア

[図書] (計 1 件)

- ① 山中 由里子、名古屋大学出版会、『アレクサンドロス変相—古代から中世イスラームへ』2009、総頁数586

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

国立民族学博物館ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/18520286.html>